

住み続けられるまち綾部へ

市政運営方針

令和6年度の予算などを審議する市議会3月定例会が、2月26日に開会。山崎善也市長はこの日、新年度の市政運営方針を述べました。



所信を述べる山崎市長＝2月26日、本会議で

能登半島地震を教訓に

令和6年、年明け早々、大規模な自然災害や痛ましい事故が相次ぎました。亡くなった方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。本市は発災直後に京都府緊急消防援助隊として職員を派遣。その後も避難所支援要員や給水対応職員、保健師、管理栄養士などの応援要請にも応じています。

本市は、多くの集落が谷筋にあり、幹線道路は1本、木造家屋も多く、高齢化も進んでいる地域がほとんどで、能登半島の地震被害は他人事ではありません。インフラ整備や安全・安心なまちづくりの重要性を改めて認識しました。

社会情勢を注視し施策を推進

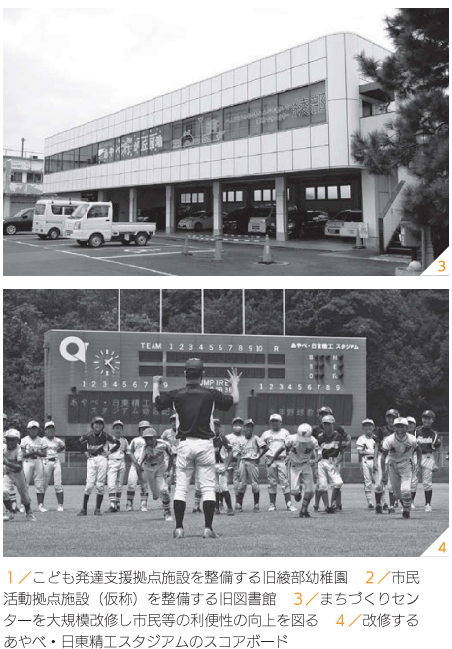
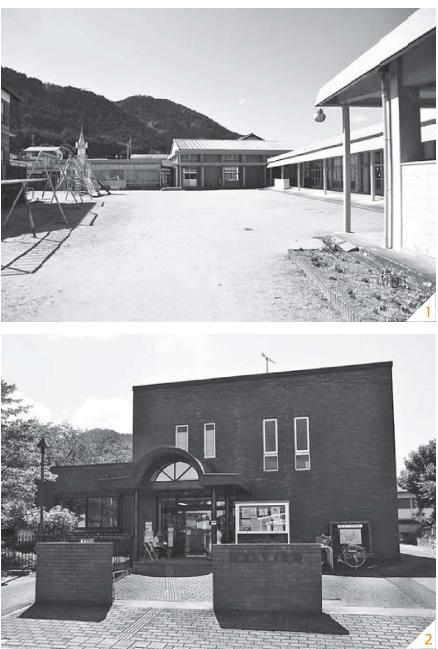
国際情勢はロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスの武力衝突など、依然として混乱を深めています。一方、国内では、昨年は30年ぶりの高い買上げ水準となったものの、国際的に原材料価格が上昇。さらに、円安の影響などから、エネルギー・食品等の価格が上昇し、経済を取り巻く環境には厳しさが増しています。



能登半島地震で被災した石川県珠洲市で救出活動に当たる市職員

新たな部を設置し「子ども政策を強化

令和6年度当初予算は、引き続き「医・職・住・教育・情報発信」をキーワードに、各分野の事業を展開します。また、予測不能な今後の災害に備えるため、市民生活の安全・安心の確保につながる施策も講じています。



1/子ども発達支援拠点施設を整備する旧綾部幼稚園 2/市民活動拠点施設（仮称）を整備する旧図書館 3/まちづくりセンターを大規模改修し市民等の利便性の向上を図る 4/改修するあやべ・日東精工スタジアムのスコアボード

主なハード事業として、西部地域振興センター・消防防災拠点施設の新設、旧綾部幼稚園を活用した子ども発達支援拠点施設、旧市民センター跡地の新都市公園、旧図書館を活用した市民活動拠点施設（仮称）、新たな子育て拠点となることも家庭センターの整備を着実に進めます。さらにまちづくりセンター等の庁舎改修や、あやべ・日東精工スタジアムのスコアボードの改修などにも着手します。

未来へつなぐ「持続可能なまちへ

昨年12月末に国立社会保障・人口問題研究所が公表した2050年の「地域別将来推計人口」によると、本市の人口は現在の約3分の2の2万624人。65歳以上の人口割合は45・5割になるとされています。移住・定住施策や少子化対策など人口減少の「緩和策」を推進しながら、人口減少社会への「適応策」に取り組むことが我々に課された責務です。

複雑多岐にわたる行政課題に対応

現代は、VUCA（ブーカ）、すなわち「不確実性」の時代とも言われ、経済社会構造の変化や住民ニーズ・価値観の多様化、災害の局地化、激甚化など、複雑かつ多岐にわたって行政課題が山積。「想定外を想定」しながらも、行政と

アプリの主な使い方

メールマガジンの確認方法



- ①お知らせの中から1つをタップ（指で触れる）すると詳細が表示されます
- ②「音声再生する」をタップすると、内容が読み上げられます

メニュー画面のアイコンから知りたい情報を手軽に入手



地図上に避難所やAEDの場所などが表示されます。ピン（地図上のマーク）をタップすると、詳しい情報や現在地から避難所へのルートが分かります（外部リンク）

市ホームページや市ホームページに掲載しているあやバス情報、市公式Facebook・LINEへアクセスできます。ごみ出しガイド「5374（ゴミナシ.jp）」と連携し、地区ごとのごみの収集日と分別方法の確認も可能です

広報あやべ「ねっと」やあやべ市議会だよりなどをPDFファイルで閲覧できます。

ハザードマップのPDFファイルのほか、気象庁のホームページに公開されている気象状況などを閲覧できます

※アイコンの名称や配置等は変わる場合があります

4/1～登録・利用開始！ アプリのダウンロードはこちらから

アプリを利用するには、スマートフォンにアプリ版の「ライブビジョン」をインストールする必要があります。各アプリストアで「ライブビジョン」と検索するか、下記QRコードからダウンロードしてください。ダウンロードと利用に費用はかかりませんが、通信料は自己負担です。市外の人も利用できます。

なお、アプリの登録・利用ができるようになるのは、4月1日からです。登録方法の詳細は、あらためて市ホームページなどでお知らせします。詳しくは、行政デジタル推進課 ☎(42)4223へ。



行政・災害情報を簡単に素早く入手！ 綾部市地域情報アプリ ライブビジョン運用開始



市は4月1日から、スマートフォンで行政や防災、自治会等の情報をひとまとめに受信・閲覧できるアプリ「綾部市地域情報アプリライブビジョン」（以下、アプリ）の運用を開始します。誰もが簡単に必要な情報を受け取れるとともに、災害時の迅速な情報発信につながります。

さまざまな情報を入手可能
アプリでは、市や各地区自治会連合会が配信するメールマガジンと同様の内容を文字と音声で確認できます。避難情報発令時には画面が切り替わり、警戒レベルが一目で分かるようになります。
また、避難所の位置や開設状況、避難所への経路、AEDの設置場所などを地図上で確認できるほか、ハザードマップや土砂災害の危険度等の防災情報に加え▽市ホームページ▽広報あやべ「ねっと」▽市公式Facebook▽5374.jp▽あやバス情報なども閲覧可能です。

メールマガジン利用者も活用を
アプリ開始後も、現在の市メールマガジン「あやべ」や、各地区自治会連合会が運用するメールマガジンは引き続き、行政情報、地域のお梅やみといったお知らせはこれまでどおり登録しているアドレスにも届きます。
アプリは、これらのメールマガジンの情報に加え、さらに多くの機能を備えています。新しい情報収集手段として、ぜひご活用ください。